

最新版 造影剤ガイドラインの改訂ポイント

企画 熊坂創真 群馬大学大学院医学系研究科 放射線診断核医学
編集 栗井和夫 広島大学大学院医系科学研究科 放射線診断学

序説

画像診断領域で使用されている非イオン性ヨード造影剤およびガドリニウム造影剤は、発売されてからすでに約30年が経過した。しかしながら、いまだにそれらの副作用やその対策についての研究論文が多数発表されている。これらの内容をすべて把握し、それらを整理・取舍選択するのは一般には困難であり、専門家が最近の知見を整理したガイドラインが重要となる。

2017～2018年にかけて、日本で広く使用されている3つのガイドライン、『腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018』、『ESURガイドラインver. 10.0』、『ACR Manual on Contrast Media ver. 10.3』が改訂された。すべての放射線診断医は、これらのガイドラインの改訂点を把握して、臨床におけるマネジメントに速やかに反映しなければならない。今回の「Current Topics」では、造影剤の副作用対策に詳しい方々に、それぞれのガイドラインの改訂ポイントを解説していただいた。

3つのガイドラインは、それぞれに特徴がある。腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018』は、日本腎臓学会、日本循環器学会、日本医学放射線学会の共同編集であり、造影剤による腎障害の具体的な対策のみならず、病態生理学的な記載も詳しい。『ESURガイドラインver. 10.0』では、造影剤の副作用に関するほぼすべての話題が網羅され、それぞれについて簡潔に対策がまとめられおり使いやすい。一方では、どうしてそのような推奨になっているのかわかりにくい点もある。『ACR Manual on Contrast Media ver. 10.3』も造影剤副作用に関するほとんどの話題を網羅し、それらについて多くの論文の知見やエキスパートの意見を集約している。しかしながら、一部の項目については最終的にとるべき対策を読者に委ねているようなところもある。

読者の方々には、この「Current Topics」で得た知識を日常診療に活かしていただきたい。

栗井和夫

1. 『腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018』の改訂のポイント-----1180
2. 『ESURガイドラインver. 10.0』の改訂のポイント
ー造影剤アレルギー（急性副作用）の対策，造影剤腎症の対策，Gdの体内沈着を中心にー -----1184
3. 『ACR Manual on Contrast Media ver. 10.3』の改訂のポイント -----1188